



島教協

《子どもたちのより良き成長のために》 情報

http://www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

No.734

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 岡 利行

島教協 第六十一回 定期総会開催

五月十五日(土)、出雲市民会館にて第六十一回島教協定期総会を、代議員・オブザーバーの出席を得て執り行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防を行いながら、来賓や出席者も絞った開催となりました。

来賓には、多々納剛人島根県議会議員様、新田英夫島根県教育委員会教育長代理として石原恵利子福教育長様、出雲市教育委員会教育長杉谷学様をお迎えしました。

冒頭、吉田修会長は、「島教協会員の皆様におかれましては、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応を進めながらの毎日であろうと思います。新しい日常といわれますが、感染の動向やワクチン接種の進み具合など日々変化する状況とにらめっこをしながらの教育活動ですので、これでやっていけばよいという決まったものではありません。これからも手探りの毎日が続いていくでしょう。」

このような状況ですので、島教協も昨年度は定期総会や結成六十周年の記念式典など多くの活動を中止や延期にせざるを得ませんでした。それらの活動を今年度は何とか開催したいと考えています。

東京オリピックも昨年開催される予定でしたが、一年延期となりました。今年開催されるということで、聖火リレーもスタートしています。予定通り開催されれば、きっと多くのドラマが生まれることでしょう。これまでのオリピックでもたくさんの名場面がありました。水泳の北島康介選手の活躍はみなさんご存じだと思います。アテネの時の北島選手のコーチ、平井伯昌氏は、直前合宿で調子の上がらない北島選手を無理をしても追い込むべきか、思い切っ



て休ませるべきか悩んだときに、幼少期に聞いた母の言葉に背中を押されたそうです。その言葉とは、「人生はやるか、やらないかしかない。」です。追

い込んだ練習をすると決めたら、とことんやる。調子が上がってくるまで待つと決めたら、きっちり待つ。中途半端はいけない。選択し続けるのが人生であるのならば、やるかやらないか積極的に判断し、決断して進んでいく。平井コーチは待つと決め、最高の結果を手にしました。

私たち島教協も、様々な教育課題に対して、組織としてどのように取り組んでいくのか、積極的に判断し、決断して進んでいくことを考えています。中途半端では子どもたちのより良い成長にはつながりません。目の前の子どもたちのためになるかどうかの一点が判断基準です。あれもこれもではなく、子どもたちの成長につながるより良い物だけを見極めつつ、心には常に高い理想と熱い情熱、強い志をもって、また明日からの教育実践に取り組んでいきたいと思います。

会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

と開会の挨拶を行いました。その後、議長に花田和弘さん(神戸川小)、記録に鎌田真理子さん(北陽小)、議事録署名に近藤佳奈子さん(中央幼)を選出し、令和二年度の総括を報告し、令和二年度決算・令和三年度の活動方針活動計画・予算について、慎重に審議していただき、全て原案通り承認されました。

大変遅くなりましたが、議案書を各学校・園に送付させていただきました。本年度の活動等についてご確認いただくとともに、一人一人が会員として主体的に活動をしてくださるよう、お願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の流行で、会員が子どもたちのより良き成長のために語り合うということができにくい状況が続いています。執行委員会や事務局会でもこの状況を何とかできないか議論を繰り返しています。よいアイデアがありましたら事務局までお知らせくださると助かります。

教育講演会開催



今年度の教育講演会は、島教協の総会後、オンライン形式で実施しました。和歌山大学教育学部教授の米澤好史先生を講師に迎え、第三回「愛着障害の理解と愛着の問題を抱える子どもへの支援」を演題にして、愛着障害の理解について過去二回の講演の振り返りと、愛着の問題を抱える子どもへの具体的な支援についての学ぶことができました。

愛着(アタッチメント)は、「特定の人と結び、情緒的なこころの絆」です。愛着障害がいへる支援は、いつも子どもたちと一緒にいる私たちができることです。愛着障害の修復のためには、先手支援により大人が主導権を握り、進めていくことが大切とのことでした。しかし多忙化を極める教育現場の中で、子どもたちとなかなかゆっくり向かい合うことができません。そこで、その子にとってのキーパーソンを選定し、チームで支援することが極めて有効であることを教えていただきました。

また、発達障害いと愛着障害を併せもつ子どもたち、対人交流に困難のある子どもたち、反応性愛着障害の子どものタイプを見抜き、それぞれに応じた支援のあり方を具体的に紹介していただきました。

教育現場で増えつつある愛着障害がいが疑われる子どもたちに対して、この講演会での学びを活かして適切な支援をしていきたいと思います。

なおこの教育講演会は、会場のみならず会員の各家庭等でも視聴できるようにしました。また全日本教職員連盟の会員に広く視聴してもらおうようにもしました。